

平成29年度 ぎふ COC+事業

成果発表会 報告書

2017.12.16 Sat

目次

1. 目次	
2. はじめに	2
3. 実施概要	3
4. プログラム詳細	4
5. 教育プログラム概要と学生発表内容	
5-1.岐阜大学	6
5-2.中部学院大学	10
5-3.中部大学	12
5-4.日本福祉大学	16
5-5.名古屋学院大学	18
5-6.参加大学共通プログラム	22
6. 講評	25
7. アンケート結果	26

はじめに

ぎふ COC+事業推進コンソーシアム
統括事業推進コーディネーター

羽島市副市長

成原 嘉彦

ぎふ COC+事業推進コンソーシアムは、平成 27 年度に文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に岐阜大学が主幹校として採択されたことを受けて組織されました。この事業の目的は、産業界ニーズに適合した人材の育成、産官学共同による雇用創出によって、学生の地元就職と岐阜県への U ターン就職を推進し、地方創生に貢献するということにあります。

参加している大学は、岐阜大学とともに中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学の 5 大学で、岐阜経済大学にも協力校として加わっていただいております。そこに事業協働機関として、自治体から岐阜県、産業界から岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビが参加しております。

この成果発表会は、COC+事業の目的を達成するために各大学において展開している教育プログラムや参加大学共通プログラムの中で、学生が今年度、岐阜県をフィールドにして学んだ成果を発表していただく場です。

「自分らしい仕事」や「天職」というものは、なかなか簡単には見つかりません。与えられた環境に自分を投げ込んで、歯を食いしばって頑張ってトライするうちに、自分というものが見えてくるとも言われています。そういう意味では、ここで発表する学生たちは、社会の実態を知るとともに自分を発見する、自分を知るという有意義な経験をされたのではないかと思います。

こうした学生たちの成長、実修の成果を確かめていただき、教育プログラムをこれから受けようという大学生や高校生、実修を受け入れてくれた自治体や企業関係の方々、あるいはこれから大学との連携を考えている皆さまの参考にしていただければ幸いです。

また、本発表会に至る各種の教育プログラムの展開にあたっては、自治体や企業、NPO 等、実に多様な皆様にご協力をいただいております。ここに改めて関係各位・各所のご協力に感謝と御礼を申し上げます。

実施概要

平成 29 年度企業向け成果発表会は、ぎふ COC+事業推進コンソーシアム主催として、①学生の学修成果を地域の企業へ還元する場とすること、②高校生やその保護者に岐阜をフィールドとした大学生の学びを発信して進学意欲向上を図ること、の 2 点を目標として開催した。

質疑応答や休憩時間中の対話はよく盛り上がり、インターンシップの受入れ先等の企業関係者も来場して談笑する場面がみられ、学習成果の還元という目的は果たされたと考えられる。一方で高校生やその保護者は来場者がなく、開催に関する情報発信に課題を残すこととなった。

また、学生同士では参加大学共通プログラムで一緒だった者が再会を喜んでいたり、他大学の教員からの指摘を受けて新たな刺激としていたり、大学間交流の良い機会として互いの絆を深めることができた。

<開催日時>

平成 29 年 12 月 16 日（土）13：30～16：15

<会場>

岐阜大学 全学共通教育棟 多目的ホール

<来場者人数>

45 人

【内訳】関係者…23 人（発表学生 9 人、大学教職員 13 人）

関係者以外…22 人

（企業関係 9 人、大学生 4 人、自治体関係 2 人、NPO 関係 1 人、その他 2 人）

<プログラム概要>

- 1.開会挨拶
- 2.学生発表（1 発表 15 分 全 6 発表）
- 3.講評
- 4.閉会挨拶

プログラム詳細

司会：日本福祉大学 全学教育センター事務長 鈴木 雄司

13：00～ 受付

13：30～ 開会挨拶

ぎふ COC+事業 統括事業推進コーディネーター、羽島市副市長 成原 嘉彦
COC+事業概要説明 岐阜大学地域協学センター センター長 益川 浩一

14：00～ 学生発表第一部（各15分）

①岐阜大学「次世代地域リーダー育成プログラム 産業リーダーコースで得た学び」

プログラム紹介：岐阜大学 地域協学センター特任助教 今永 典秀
学生発表：岐阜大学 地域科学部3年 西村 友恵

②中部学院大学「サマースクールでの学び」

プログラム紹介：中部学院大学 地域連携推進センター副所長
看護リハビリテーション学部准教授 西嶋 力
学生発表：中部学院大学 人間福祉学部2年 北原 茉奈
中部学院大学 人間福祉学部2年 酒向 花菜

③中部大学「地域活性化リーダーを目指して」

プログラム紹介：中部大学 生命健康科学部准教授、コモンズセンター長 伊藤 守弘
学生発表：中部大学 生命健康科学部3年 曾我 航平

—休憩—

15：00～ 学生発表第二部（各15分）

④日本福祉大学「私がCOC+の活動で得た財産」

プログラム紹介：日本福祉大学 就業支援コーディネータ 星野 宏
学生発表：日本福祉大学 社会福祉学部3年 原 奏恵

⑤名古屋学院大学「観光地域づくり人材育成プログラム in 飛騨高山」

プログラム紹介：名古屋学院大学 経済学部講師 田中 智麻
学生発表：名古屋学院大学 外国語学部3年 古川 航希
日本福祉大学 国際福祉開発学部3年 崔 炯根

⑥参加大学共通プログラム「サマースクールで学んだこと」

プログラム紹介：岐阜大学 地域協学センター特任助教 今永 典秀
学生発表：岐阜大学 応用生物科学部2年 大西 未紗

16：00～ 講評

ぎふ COC+事業外部評価委員、株式会社技研サービス統括顧問 猿渡 要司
閉会挨拶 中部大学生命健康科学部准教授、コモンズセンター長 伊藤 守弘

教育プログラム概要と
学生発表内容

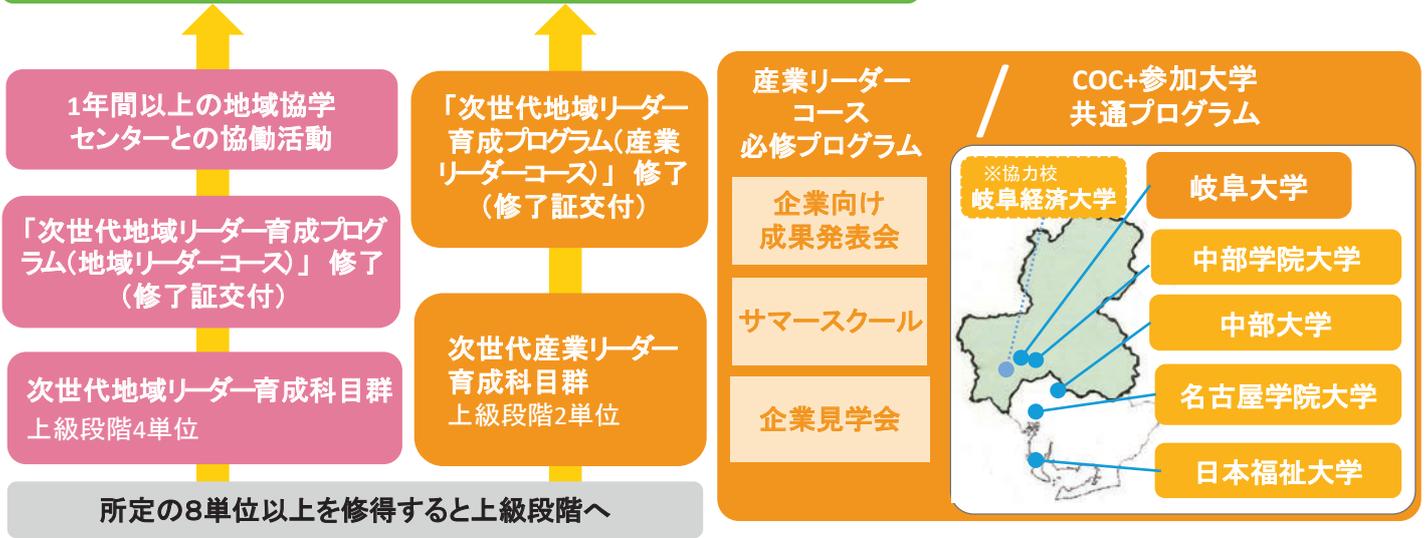
1. 岐阜大学 次世代地域リーダー育成プログラム 産業リーダーコースで得た学び

プログラム紹介: 岐阜大学地域協学センター特任助教 今永典秀

学生発表: 岐阜大学地域科学部3年 西村友恵

教育プログラム概要(次世代地域リーダー育成プログラム)

「ぎふ次世代地域リーダー」称号授与



岐阜大学で平成27年度から全学的に展開している「次世代地域リーダー育成プログラム」は、「地域(岐阜)を知り」「地域(岐阜)の課題を見つけ」「地域(岐阜)の課題解決に向けて行動する」能力を備えたグローバルな人材を育成するプログラムです。所定の初級段階を修了した学生が上級段階科目を受講し、授業以外での協働活動あるいは必修プログラムを経ることで「ぎふ次世代地域リーダー」の称号が授与されます。

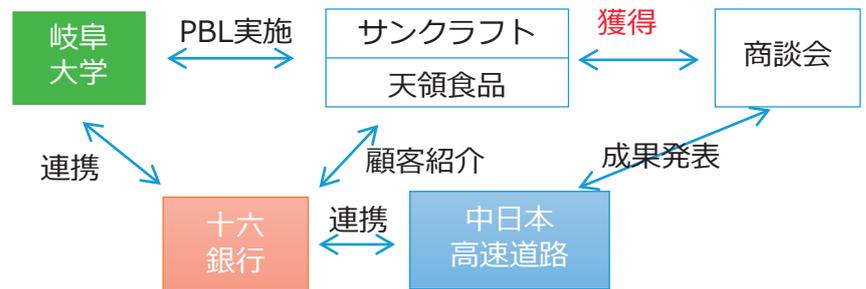
産業リーダーコース(上図オレンジ部分)は、複数の事業協働機関による協力体制の下、産業界のニーズにより適合した人材を育成するために平成28年度から新設されました。産業界が求める5つの力として「俯瞰力」「共同推進力」「駆動力」「課題解決力」「地域志向力」を設定しています。

学生発表について

今回発表した学生は、産業リーダーコース上級段階科目「産業リーダー実践」の受講生です。今年度の「産業リーダー実践」は十六銀行と中日本高速道路、岐阜大学の三社が連携して講義を実施しました(右図)。

16名の受講生がサンクラフト(関の刃物)と天領食品(甘酒)の商品プロモーションについて、企業と協働して提案を行っています。今回の成果発表はその中間発表も兼ねて実施しました。

【産業リーダー実践の講義構造】



学生発表内容

次世代地域リーダー 産業リーダーコースで得た学び

岐阜大学 地域科学部3年 西村友恵

本発表の流れ

1. 自己紹介
2. 受講した講義について
3. 産業リーダー実践
4. 今後

1.自己紹介

プロフィール

名前	西村友恵
学校	岐阜大学
学部・学科	地域科学部 地域政策学科
学年	3年

2.受講した授業

「ぎふ次世代地域リーダー」称号授与



3.産業リーダー実践

- ・十六銀行と中日本高速道路が主催する商談会に向けて、協力企業であるサンクラフトに関するアイデアを出す
- ・10月スタート、1月に最終提案
- ・サービスエリア(SA)に置いてもらえることを目指す

学生のうちに企業の人と関わる
経験を積みたい

受け入れ先企業紹介

会社概要

社名	株式会社サンクラフト
創業	昭和23年
代表	川嶋紹市
本社・工場	岐阜県関市
事業内容	家庭用刃物、調理用品、製菓用品、卓上用品などのオリジナル商品の企画開発・生産・販売
主な商品	ポテトチップ たまごのなめらかスティック まぜ卵 etc....

スケジュール

◎商談会に向けた学生らしい
提案をしよう！

ステップ	内容
イモムシ	産業リーダー実践スタート サンクラフト 企業見学 @サンクラフト
サナギ	中間報告 @岐阜大学 企業訪問(2回目) Nexco中日本の方にヒアリング
チョウ	最終提案

ステップ イモムシ



- ・企業分析
 - ☑SWOT分析
- ・消費経済論(AIDMA、カスタマージャーニー、インサイト...)
- ・どんな商品が売れているのか
 - ☑市場調査
- ・お客さんは何を求めているのか
 - ☑アンケート

フォトギャラリー①



看板



開会挨拶



事業概要説明



司会



閉会挨拶



講評

2. 中部学院大学 COC+教育プログラムについて

プログラム紹介: 中部学院大学地域連携推進センター副所長
看護リハビリテーション学部准教授

西嶋 力

学生発表: 中部学院大学人間福祉学部2年 北原茉奈、酒向花菜

教育プログラム概要

プログラムの目的

本学の連携機関、大学が持つ知見などの資源を活用し、地域に貢献できる人材として活躍するために備えるべき素養を学生に習得させることを目的としています。

プログラムの構成

プログラムは、(1)聞く・見る。(2)挑戦する。(3)活躍する。の3ステップで構成しています。

(1)見る・聞く は全学共通科『美濃と飛騨のふくし』で取り組みます。

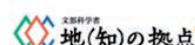
岐阜に対する関心を高める、発見力・思考力を磨きながら岐阜における役割を見つけることを目指します。



(1)聞く・見る 「美濃と飛騨のふくし」 講義



平成29年度
前半に岐阜県の現状を学びました。後半は、自治体の職員の方に来ていただき、地域の課題について意見交換をしました。



(1)聞く・見る 「美濃と飛騨のふくし」 フィールドワーク



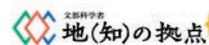
平成29年度
本巢市での「竹のビニールハウスづくり」を実施しました。そのあと、名産の流しそうめん、野菜を食べて住民との交流もしました。

(2)「挑戦する」は、経営学部科目「インターンシップ I・II」(単位認定)、人間福祉学部科目「キャリア形成論 II」(単位認定)、理学療法士、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家試験受験資格取得及び教員免許取得のための実習(単位認定)で取り組みます。

フィールドでの体験や実践活動、実習を通して、適応力・実行力を鍛え、自らの適性について考えることを目指します。

(3)「活躍する」は、地域連携推進センター実施の「ふれあいコラボワークショップ」、COC+参加校共通プログラム「サマースクール」で取り組みます。

地域の現状や地元企業に関する理解を深め、チームワークによる課題解決活動を通して、企画力・協働力を磨き、今後のキャリアの選択肢を広げることを目指します。



(3)活躍する ふれあいコラボワークショップ



平成29年度
『上之保ゆず祭り実行委員会スタッフ』として、参加と意見交流
関市上之保ゆず祭りでは、学生が司会を担当した。

学生発表について

2017年9月5日から7日に、大垣、養老、揖斐川をフィールドに2泊3日で開催された参加校共通プログラム「サマースクール」での学びを報告しました。本学からは福祉・医療の専門職を目指す学生が参加し、他の専門を学ぶ学生との交流で、大学では経験できない学びができました。

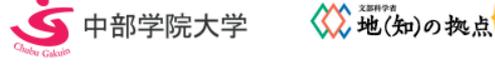
学生発表内容



中部学院大学

サマースクールでの学び

人間福祉学部2年
北原茉奈 酒向花菜



サマースクール

- ・COC+参加校の共通プログラム
- ・地域を支えている方々や他大学の学生と一緒に地域「将来」を考える。
- ・地域やそこで取り組む企業の現状、課題への理解を深め、自分の能力を磨いて、今後のキャリアを考える。



- ・2017年9月5日～7日(2泊3日)
- ・2017年度の全体テーマ「西濃圏域に人を呼び込む」
- ・大垣コース、養老コース、揖斐川コースに分かれて、視察・体験
- ・その後、グループごとに与えられた対象者を「西濃に呼び込む」ための取り組みを検討



2日目には、

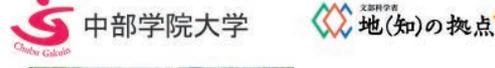
- ・大垣市教育委員会 中井 正幸氏
- ・養老改元1300年推進室室長 川口 智也氏
- ・揖斐川ワンダーピクニック実行委員会 代表 久保田大介氏

のお話を伺い、西濃での取り組み、魅力を知りました。



○酒向さん

- ・3日目のグループ報告に向けて、メンバーと深夜までかかって作成したパワーポイントのファイルが消えてしまったという経験から「基本を大切に」
- ・他の専門を学ぶ学生の意見を聴き、同じところを見学し、西濃について考えるときでもいろいろな意見が出たことから「自分とは異なる視点」
- ・メンバーの意見を聴きつつ、自らの意見をまとめていくリーダーを見て、ていねいに話し合いを進めることはソーシャルワーカーを目指す自分にとって「将来、必要なスキル」という3点でまとめました。





○北原さん

- ・思い切って自分の意見を言ったところ、自分の意見に対してメンバーがプラスの意見、マイナスの意見を出してくれたということから「グループワークのおもしろさ」
- ・メンバーと話すことで、積極的な人もいれば、フォローしてくれる人、まとめるのがうまい人などいることを知ることができたことから「いろいろな人と話したいせつさ」

の2点を学んだこととして発表しました。






3. 中部大学 地域活性化リーダー育成プログラム 地域活性化リーダーをめざして

プログラム紹介: 中部大学 上野 薫、伊藤守弘

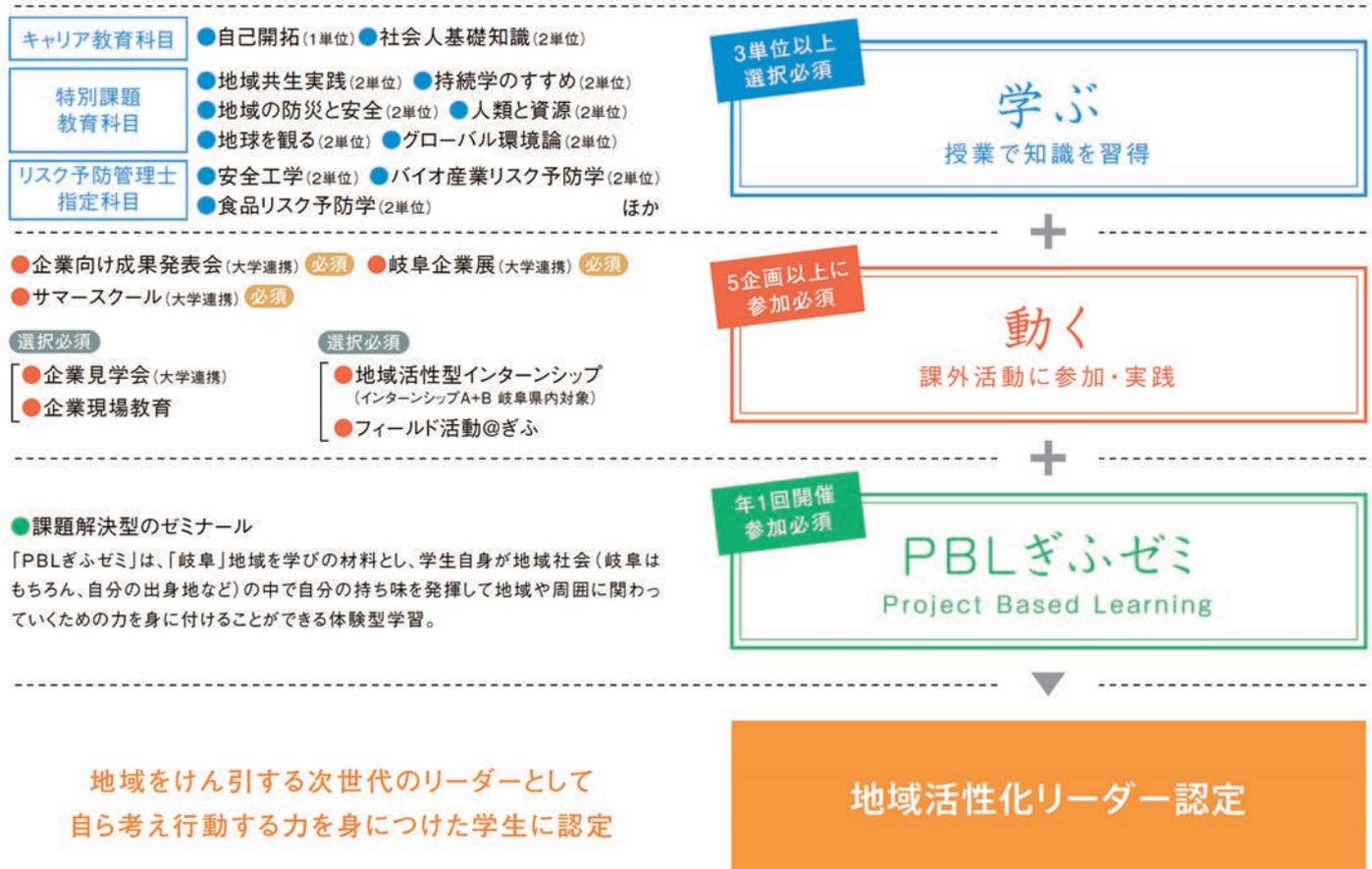
学生発表: 中部大学生命健康科学部スポーツ保健医療学科 曾我航平

教育プログラム概要

地域で活躍する「地域活性化リーダー」を育成します。

中部大学は、他大学・自治体・企業・金融機関と協働して岐阜県内の企業と学生との関わりを強化し、地域のニーズにあった人材、「地域活性化リーダー」を育成します。

地域活性化リーダーは、岐阜県をモデルに地域の課題を見つけて、その解決に取り組む「ひと」です。



地域活性化リーダーになるには

①所定の単位を修得し、②企業現場教育などの課外活動と③PBLぎふゼミ(Project Based Learning 課題解決型のゼミナール)に参加することで、地域活性化リーダーの資格を取得することができます。

学生発表について

今回発表した学生は、「地域活性化リーダー」資格を目指す学生です。(平成29年度第二期生)(平成30年3月5日認定予定)。今年度の「地域活性化リーダー」は、【本学内での正課講義の必要単位の取得】+【本学独自のプログラムへの参加】+【COC+連携大学との共育プログラム】に参加し、自己申請のち【学内審査】を経て認定されます。

発表者は、これまでの数々の学びを深く振り返り、現在までの自分と今後の自分の在り方を厳しく見つめ、地域活性化に貢献できる人材としての現在と未来の目標を発表しました。



学生発表内容

地域活性化リーダー取得を目指して

中部大学 3年 曾我航平

大学での活動

- 1,2年は単位取得のためだけ
- 救急救命士校内実習



この活動を知ったきっかけ 参加理由

- 大学生活
- 私の師匠である伊藤先生からの誘い
- 岐阜出身である
- 人間としての成長の場を求めて
- 地域活性化リーダー取得のため
- 消防という仕事は地域との関わり

「地域活性化リーダー」って何？

岐阜県を通して地域の良さを知り、その特徴を生かし、地域をけん引する次世代のリーダーとして、自ら考え行動する力を身につけた学生に認定される資格です。



中部大キャンパスで「学ぶ」

- 地域や社会に貢献するための知識を授業で習得
 - 地域共生実践
- 本科目は、地域における人の行動の視点から考察する。特に、地域で“多くの年代”や“様々な考え方や文化の人々”が共に生活する(共生)ことに対応する人間的基盤形成を目的とする。具体的には、まちづくりに不可欠な資源が、若者であるという意識を高めるための課題解決タイプの授業を実践する。
- 持続学のすすめ
- 持続可能な社会の実現に向けて環境・エネルギーの問題を理解し、自分の生活慣習を見直し、社会的責任を果たすべく行動できる指針を持つと同時に国際問題や地球温暖化などグローバルな観点から大局的な視野を持ち、幅広い議論ができる。



PBL岐阜ゼミ

- 共同作業能力を養うための課題解決型学習
- 岐阜県をテーマにした話し合い
- コンセンサスの重要性
- 意見を出したり聞いたりする積極性



岐阜県で「動く」

- 行った活動<サマースクール、恵那市森の調査、今仙電機研究所見学>
- 岐阜県内にキャンパスを広げその地域特有の課題に取り組む
- 活動を通して地域の良さや課題を捉えたとともに解決策の作成に取り組む



第3回 新・森の健康診断 「五感で知る恵那の問題と魅力 ～里のイノシシ問題解決に向けて～」



スケジュール

12月9日(土)
 1040 オープニング、アイスブレイク: 大学教員
 1100 シシ肉部位の観察、BBQ、試食会、地元の入植の歴史、
 狩猟の実態紹介(元市議会議員・森の健康診断実行委員長、地
 元ハンター)
 1400 イノシシ痕の観察、人工林の密度調査観察
 1600 座学(森林学: 大学教員、恵那市での被害状況と対策: 林
 政課)、提案作成開始
 1800 夕食
 1930 グループワーク
 2400 就寝

9

12月10日(日)

730 朝食
 830 発表準備
 930 発表会(ゲスト: 恵那市猟友会会長、三郷振興課事務所
 長、地元市民、森の健康診断事務局長・地元ハンター)
 1030 意見交換会、終了後移動(三郷コミュニティセンター)
 1230 お昼(シシ肉カレー)、みんなで後片付け
 1330 ふりかえり、懇親会
 1440 閉会 挨拶と集合写真、片づけ
 1500 バス出発 JR神領駅まで

10



◆地元での課題解決には、地元の声、地元の現状を自分の五感で
 知ることが何より大切。
 ◆地元で解決のための行動を促すには、行政、猟友会だけに頼ら
 ず、個々の住民をグループ化し、実施単位を作る工夫が必要。
 ◆提案は、小さくまとめず、自由で新しい発想を大切にすることが
 重要。
 ◆.....



12

まとめ

- 地域活性化リーダー取得はゴールではなくスタートである
- 地域の安全にかかわりたい
- 岐阜県の消防で活躍



フォトギャラリー②



岐阜大学



中部学院大学



中部大学



日本福祉大学



名古屋学院大学



参加大学共通プログラム

4.日本福祉大学 私がCOC+の活動で得た財産

プログラム紹介:日本福祉大学就業支援コーディネータ 星野 宏

学生発表:日本福祉大学社会福祉学部3年 原 奏恵

教育プログラム概要

〔ふくし・マイスター+(プラス)に認定〕

ふくし・マイスターとしての素養を身に付けるとともに、地域産業界やまちづくりの現場ですぐに活躍できる実践力を獲得した学生に対し「ふくし・マイスター+」の称号を与える。



〔ふくし・マイスターの養成〕

5つの学びのステップで地域と関わる1年次プログラム。1年次必須科目や全員履修科目で全学生が取り組む。

10科目20単位以上の修得+リフレクション



学生発表について

発表した学生は、ふくし・マイスターの仮認定に加え、COC+の参加大学共通プログラム、日本福祉大学プログラムに参加し、「見る・聞く」「挑戦する」「活躍する」の3ステップを実践しています。今回の成果発表では、各企画に参加して、地域とどのように関わり、何を学び、何を得たのか。そして、それを次の活動や自身と地域の今後にどう活かそうとしているのかを発表いたしました。

【参加大学共通プログラム】

- ・ サマースクールin東濃

【日本福祉大学プログラム】

- ・ 卒業生取材
- ・ 卒業生職場訪問
- ・ こだわりお野菜マルシェ
- ・ 多職種連携体験会
- ・ 仕事と家庭の両立を考える講座
- ・ 日本福祉大学岐阜県人会活動

学生発表内容

私がCOC+の活動で得た財産



日本福祉大学 3年
原 奏恵

自己紹介

名前：原 奏恵（はら かなえ）

大学：日本福祉大学 社会福祉学部 3年

出身：中津川市

きっかけ：2年生面談の際にCOC+に携わっている職員の方と合い、興味がある企画があったため参加した。

COC+で行った活動

- ❖ サマースクールin東濃 2016年9月
- ❖ 卒業生取材 社会福祉法人いぶき福祉会 2017年2月
- ❖ 卒業生職場訪問 子ども家庭支援センター麦の穂 2017年5月
- ❖ こだわりお野菜マルシェ NPO法人まちづくりスポット 2017年8月
- ❖ 多職種連携体験会 地方独立法人岐阜総合医療センター 2017年8月
- ❖ 日本福祉大学岐阜県人会活動 2016年8月～

卒業生職場訪問

2017年5月

お話をうかがい、岐阜の児童支援の実情や仕事のやりがいを教えていただいた。

感じたこと・学んだこと

- ・学ぶ機会は自分でつくる
- ・根本にある思いを持ち続ける



こだわりお野菜マルシェ

2017年8月

高山市でボランティア活動
高山の桃を使ったかき氷の販売や、購入者へのインタビュー

感じたこと・学んだこと

- ・自分で工夫できる楽しさ
- ・今までの経験を生かした場所



多職種連携体験会

2017年8月

社会福祉士と看護師、保育士を目指す学生が集まって事例検討。
実際にあった事例をつかっけて、多職種連携について学んだ。

感じたこと・学んだこと

- ・多職種連携のおもしろさ、必要性
- ・初対面の人たちのグループで一つの発表を完成させる難しさ



活動を通じて

- ❖ 自分の強みと弱みを見つけることができた
- ❖ 自分のしてきたことに自信を持てた
- ❖ 様々な人とのつながりができ、違う価値観に触れることができる

これからの目標

- ❖ 自らやりたいことを見つけ、それに向かって努力できる人になる
- ❖ 福祉の現場で問題意識を持って地元で活躍できる人になる

5.名古屋学院大学 観光地域づくり人材育成プログラム in 飛騨高山

名古屋学院大学 田中智麻

学生発表:名古屋学院大学3年 古川航希／日本福祉大学3年 崔炯根

教育プログラム概要

上級まちづくりマイスター認定／就業

COC+

インターンシップ + 上級まちづくり演習(飛騨高山編)

高山市の観光産業でインターンシップを行い、観光地域づくりに関わる課題に取り組む。
高山市の観光産業の経営者と共に人材育成プログラムを開発する。

COC

歴史観光まちづくり学

- 観光市場の基礎知識
- 地域づくりの理解

歴史観光まちづくり演習

- 地域資源の活用／情報発信
- 地域イベントの実践

観光地域づくりの土台となる基礎知識、社会人基礎力を身につける

企業と設定した課題(2017)

1. 宿泊施設(ひだホテルプラザ)

- 宿泊施設の生産性向上計画
業務の合理化、宿泊客へのサービスの向上に向けた改善提案を行う。
- 観光動向調査と宿泊施設の実施提案
観光客のヒアリング調査から、回遊実態や高山に対する意向を把握する。
就業体験と調査から高山の観光発展に対する宿泊施設の可能性を提案する。

2. 交通事業者(濃飛バス)

- 観光客動向調査
高山や奥飛騨を拠点に観光客が実際にどのような旅をしているのか、聞き取り調査により動向把握する。
- 「気ままなバス旅」企画提案
動向調査および企業の問題点から、「観光地と既存路線を組み合わせたツーリズム(気ままなバス旅)」を企画する。

学生発表について

- 【観光地域づくり人材育成プログラム2017】で実施したひだホテルプラザ、および濃飛乗合自動車株式会社の実習生から各1名が発表した。
- 2017年度は、COC+関連校の観光地域づくりに関心のある学生にも参加を呼びかけ、名古屋学院大学の受講生の他、日本福祉大学からも参加した。

学生発表内容

1. 概要説明

プログラムの構成、事前学習、実施内容、および各実習先での課題と発表について紹介した。
(スライドは別紙参照)

	ひだホテル	濃飛バス
事前研修 (合同)	7/1～2事前研修①高山現地研修・企業との顔合わせ 7/15事前研修②観光動向、観光産業、地域づくり	
	宿泊施設の現状 サービス形態、組織体系	旅行者調査の手法 調査計画、実施手法
高山実習 8/5～9/2	会社の基礎知識 業務全般の就業体験 営業、マーケティング サービス形態理解 動向調査(高山駅)	会社の基礎知識 路線研修・バス旅体験 拠点施設の就業体験 動向調査(平湯、高山駅) 企画提案の作成
課題発表	8/30社内での課題発表会	9/1社内での課題発表会
事後総括	9/15 総括レポート、振り返り 10/12 名古屋学院大学内発表、12/16COC+報告会 など	

2. 実習の成果と今後の展望

2名の発表者がそれぞれ自身の実施した課題紹介と実習に取り組んだ成果について発表した。
それぞれの成果発表の要点を記載する。

●古川航希 ふるかわ・こうき(濃飛乗合自動車株式会社)

【観光地とバス会社】

- 実習の初めに社長から会社の抱える課題(乗鞍への観光客減少)を聞いた。実際に体験して乗鞍の良さを知ったが、地域の人達には地元の良さが分からないものなのかという疑問を抱いた。
- 旅行に行くときに自分は必ず地域のバスを利用する。今回の演習により、観光地にとって交通事業者は切っても切れない関係があることを実感した。

【観光地経営】

- 観光客実態調査などから、若者を高山に集客する方法を考え、自分自身があつたらいいと思うツアーの企画を考えた。聞き取りの際に、初めはしぶしぶ答えてくれていた旅行者も、聞き取りの工夫をすることで徐々にコミュニケーションの取り方を学んだ。直接旅行者の声を聞くことも重要だと気づいた。
- 観光を盛り上げるためには、観光業者、地元民、観光者が一丸とならなければいけないと感じた。

●崔炯根 ちえ・ひよんぐん(ひだホテルプラザ)

【観光地の宿泊業】

- ホテルの多様な業務体験を通して、日本のホテルの強みを理解した。また、日本人、外国人のホテルの使い方の違いなど、観光客の傾向を観察することができた。
- 街中の夜が早いという問題を感じる一方で、夜を宿泊施設で楽しむことも観光の一部であると気がついた。宿泊施設は、単に宿泊機能を提供するだけでなく、宿泊施設で出来る遊びやイベントの企画、観光地の魅力を伝える役割もあると感じた。

【観光地経営】

- プログラムに参加した動機は、将来は観光地づくりをしたいと考えており、高山で先進事例に触れられると思ったため。
- 街頭調査で、欧米客の多さ、訪日旅行者の旅行動向や宿泊施設の選択傾向を知り、高山の課題について考えた。また、高山がターゲットを明確にし、地元の経営者たちが地域の特性を活かして観光に力を入れていることを知った。
- 自分自身が地域振興をする際は、地域住民が自ら来なくなる観光地づくりを、地元の人達と協力して実践していきたい。

学生発表内容

3. 発表スライド抜粋

名古屋学院大学主催・高山市後援

**観光地域づくり
人材育成プログラム
in 飛騨高山**

プログラム

開催期間 2017年8月

開催場所 岐阜県高山市

内容

- 観光産業インターンシップ (ひだホテルプラザ・濃飛バス)
- 地域づくり演習

名古屋学院大学3年 古川航希・日本福祉大学3年 崔炯根

事前研修(7月・高山1泊2日)

企業入門とインターン

ひだホテルプラザ

濃飛バス

事前研修の様子、ひだホテルプラザの外観、濃飛バスの乗客の様子、企業入門とインターンの様子、ひだホテルプラザの受付、濃飛バスの乗客の様子。

観光客動向調査

JR高山駅

高山濃飛バスセンター

平湯ターミナル

企業内課題発表

企業内課題発表の様子。

気ままなバス旅 企画提案の内容 (古川担当分)

- 観光客動向の実態から分かった関東圏の人の動きから
- 関東圏の学生をターゲットにしたフリーパスを計画
 - 【行き】 新宿→高山or平湯
 - 【帰り】 高山or平湯→新宿の高速バス
 - さるぼぼバス・まちなみバス/乗鞍線・新穂高線・上高地線

特典！長旅に嬉しいクッションプレゼント

お得で気ままなバスツアー！通常19920円を15000円！

- 1日目 新宿～高山 <<高山市内観光>>
高山～平湯 (奥飛騨) <<平湯で温泉>>
- 2日目 平湯～乗鞍 <<乗鞍観光(星空・ご来光)>>
- 3日目 乗鞍～新穂高ロープウェイ <<ロープウェイ>>
新穂高～高山～新宿

特典！4人以上に段ボールいっぱいお菓子付き！

若者向け限定バックを用意して男子グループを集客

フォトギャラリー③



発表者全員集合



再会①(サマースクール)



再会②(観光産業インターンシップ)

6.参加大学共通プログラム サマースクールで学んだこと

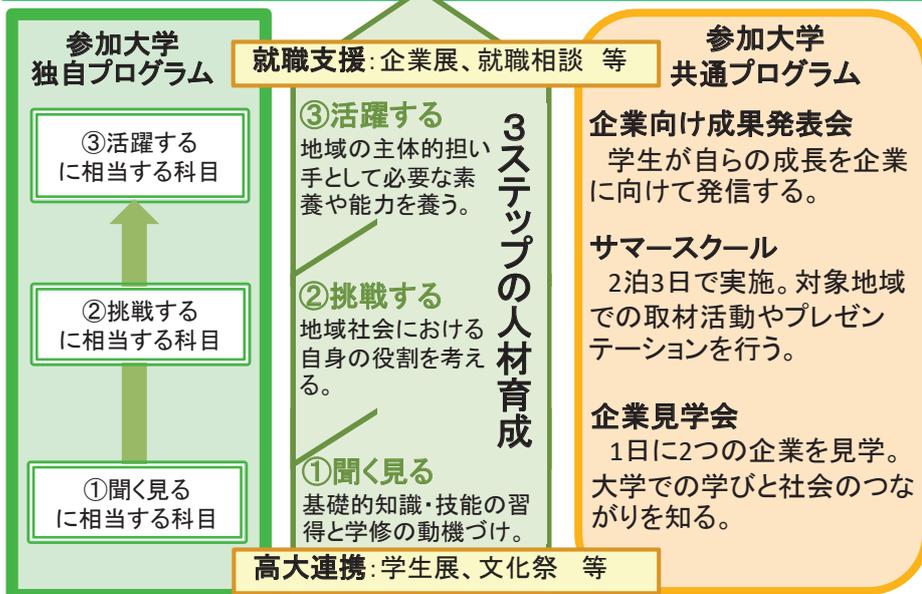
プログラム紹介: 岐阜大学地域協学センター特任助教 今永典秀

学生発表: 岐阜大学応用生物科学部2年 大西未紗

ぎふCOC+事業 教育プログラム概要

【ぎふCOC+事業 教育プログラム部分】

若年層の地元就職・Uターン就職による地方創生



【ぎふCOC+事業推進コンソーシアム
参加大学一覧】



ぎふCOC+事業推進コンソーシアムで展開するプログラムは、岐阜県の人口流出への対応を目的としています。若年層の地元就職・Uターン就職を促すために、インターンシップを核とした3ステップの人材育成を実施しています。参加大学それぞれに独自の強みを生かしたプログラムを展開している他、共通プログラムとして「企業見学会」「サマースクール」「企業向け成果発表会」の3種類を実施しています。

岐阜県の人口流出

20歳代、職業上の理由で愛知県に転出するケースが多い

学生発表について

平成29年度のサマースクールは「西濃圏域のプロデュース」をテーマに、西濃滞在プランを作成・提案する2泊3日のプログラムを実施しました。5つの参加大学から50名の学生が参加し、大学混合の9チームに分かれて課題に取り組みました。各チームには冒頭でメインターゲットが提示され、そのターゲットをいかに呼び込むのかを考えました。大垣・養老・揖斐川の3手に別れて見学し、持ち寄った情報やゲスト講師の講演等を頼りに様々な滞在プランを提案しました。最終発表では相互評価を実施。今回発表したのは評価が最も高かったチームの学生です。

【サマースクールのしおり(抜粋)と実際の様子(上・現地見学、下・振り返り)】



Day.1 [9月5日]		Day.2 [9月6日]		Day.3 [9月7日]	
8:00	JR金山駅出発	7:30 ~8:45	朝食	7:30 ~8:30	朝食
9:00	JR岐阜駅出発	8:45 ~10:00	グループワーク	8:30 ~9:00	発表会準備
10:00 ~12:00	オープニング	10:00 ~12:00	ゲスト講師講演	9:00 ~11:30	最終発表会
12:00 ~12:30	昼食	12:00 ~13:00	昼食	11:30 ~12:00	閉会式
12:30 ~17:30	各コースごとに見学	13:00 ~15:00	グループワーク	12:00 ~12:45	昼食
17:30 ~18:00	準備等	15:00 ~16:00	中間発表	12:45 ~13:45	振り返り
18:00 ~19:00	グループワーク	16:00 ~18:00	グループワーク	13:45 ~14:00	片付け
19:00 ~20:00	立食交流会	18:00 ~19:00	夕食	14:00	出発
20:00 ~23:00	入浴、グループワーク等	19:00 ~23:00	入浴、グループワーク等		JR岐阜駅解散
23:00	消灯	23:00	消灯		JR金山駅解散



学生発表内容

サマースクールで 学んだこと

岐阜大学
応用生物科学部応用生命科学課程
2年 大西 未紗



「西濃圏域に人を呼び込む
観光プラン」を考えよう！



SNSを多用しまくる大学生 の岐阜フォトジェニック旅

ターゲットは、大学生。

- ① SNSを多用
- ② お金がない
- ③ 流行に敏感



＝どんどん、
宣伝してもらおう！

大学生が思う西濃のイメージ

体験する前	体験した後
西濃ってどこ？	名古屋駅から電車で約30分
西濃って何がある？	自然に溢れた非日常な風景
田舎っぽくて古臭い	グルメがある！
なんとなく遠い気がする	インスタ映えしまくる
山と川しかなさそう	温泉施設がある

大学生は、国内旅行で何をしたいか？

◆図表2 国内旅行で何をしたいか(全体) ※複数回答



1位 温泉に入る
2位 自然に触れる
3位 食・グルメ

大学生は、
国内旅行で
何をしたいか？

||
自然！
温泉！
グルメ！

順位	男性	女性
1	自然の景色を見る、触れる	食・グルメ
2	温泉に入る	温泉に入る
3	食・グルメ	自然の景色を見る、触れる
4	まち並みを見る、歩く	まち並みを見る、歩く
5	スポーツ観戦	ショッピング(お土産を含む)
6	キャンプ・バーベキュー、釣り、海水浴	コンサート・演劇などの鑑賞
7	史跡・文化財、博物館・美術館を訪ねる	キャンプ・バーベキュー、釣り、海水浴
8	ドライブ、ツーリング(バイク・自転車)	有名な建物などを訪ねる
9	有名な建物などを訪ねる	史跡・文化財、博物館・美術館を訪ねる
10	映画・ドラマのロケ地やアニメ・小説のモデルとなった場所を訪ねる	映画・ドラマのロケ地やアニメ・小説のモデルとなった場所を訪ねる

西濃の魅力と若者(大学生)のニーズ

西濃の魅力

自然豊かで写真映え

池田温泉

鮎、水まんじゅう、焼肉

ぷらっと大垣通行手形

若者のニーズ

写真大好き(インスタ)

温泉入りたいもん！

グルメが好き！

町歩きしたい

車で 30km 35km 40km

このキョリ行くなら、**西濃**っしょ。

大学生が旅行に求めるものNo3 ①自然 ②温泉 ③グルメ
全部味わえるのは、西濃地域のほかになし！！



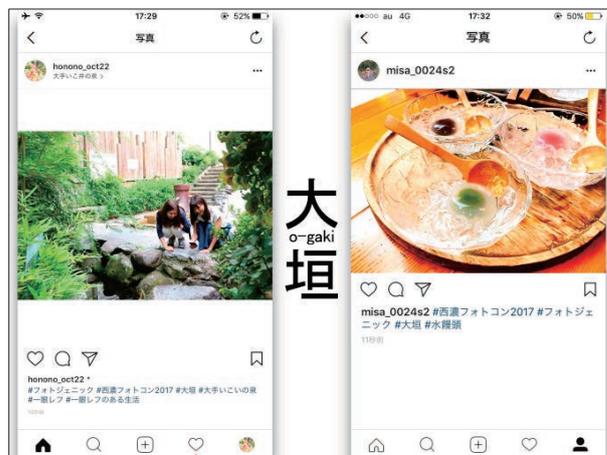
超いーじゃーん西濃!!

西濃の魅力が、
若者(大学生)のニーズに、

ぴったり!

西濃フォトコン2017

Seino insta [1]
Photogenic
Contest 2017



Seino insta [1] Photogenic Contest 2017

西濃の暮らしや自然を感じられる「感動の一枚」を撮って、
インスタグラムに投稿しよう!
#西濃フォトコン2017

※若者は、西濃フォトコン実行委員会で最優秀賞者のもと順位を上げます。

得たもの・学んだこと

- ・グループ丸となって成果を出すことができたときの達成感
- ・グループでの役割分担の大切さ

今後について

- ・産業リーダーコースでのグループワーク活動で今回の経験を活かす

講評

ぎふ COC+事業推進コンソーシアム
外部評価専門委員会委員
株式会社技研サービス常勤監査役兼統括顧問
猿渡 要司

今回の成果発表会では、6つの学生発表を聴かせて頂きました。

すべてに共通して感じたのは、多種多様な他者との関わりの中で他者を認め、自分を再度考え直すということと、グループでの達成感を得られているということです。問題解決のための手段や手法を学びながら、他者とコミュニケーションをとることによって自分自身の考えや思いを再認識されたのではないかと思います。

個別の発表での学びも感じられました。

1番目の発表では企業の厳しさを体験された。インターンシップで受入れて頂くとき、最初はお客さんの状態です。そこから体験を通じる中で脱皮して、まさに企業の一員として考えてもらえるようになるのは、やはり一種の成長でしょう。

2番目の発表では異なる視点の意見を聞いて自分に活かすということを言われました。グループワークの面白さですが、多様な人と話すことによって視野が広がっていくというのは極めて重要なことです。そして異なる視点を持ちつつも同じベクトルで組織の中で進んでいく、これは企業の中でも極めて大切な事です。

3番目の方は地元で解決するために行政だけではなく住民の自治単位を作ることが有用だということを言われました。地域の課題解決に向けて行政だけが音頭をとっても上手くいかないことは多いです。住民の活動が必要だという、素晴らしいことを学ばれたと思います。

4番目の発表では自分で工夫する、経験を生かすということを言われました。異なる職種の方々と連携して一つにまとめていく中で、自分の考え方を検証できたというのは非常に良いことです。この経験をさらに生かして欲しいと思います。

5番目、高山の観光の発表で「夜の観光」というのは私も新しいと思いました。今まで高山の方々が思いつかないようなアイデアも出されたのではないかと思います。人口が減っていく中で、企業も学生もどう生き残るかが重要になる時代です。観光地づくりというのはその意味でも新しい視点だと感じました。

6番目の発表は大変若者らしい。学生が行きたいのが自然・温泉・グルメだというのは我々の視点と一緒にあるというのは、面白く感じました。役割分担の大切さ、組織での達成感をどう作るかを学ばれたということで、これも非常に大切なことだと思います。

色々なコミュニケーションを通じて他者を認めることによって、学生自身も考えることができました。このことこそが、この事業の大きな成果なのだろうと思います。

アンケート結果

関係者以外の来場者 22 人に下記アンケートを配布し、17 人から回答を得た。

平成 29 年度 ぎふ COC+事業推進コンソーシアム成果発表会 来場者アンケート	平成 29 年度 ぎふ COC+事業推進コンソーシアム成果発表会 来場者アンケート
<p>本日はご参加頂き、誠にありがとうございます。今後の取組みをより充実したものとするため、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。</p> <p>1. ご自身についてお答えください。 ①高校生 (年生) ②大学生 (年生) ③大学教員 ④大学職員 ④企業関係 ⑤自治体関係 ⑥NPO 関係 ⑦その他 ()</p> <p>2. この成果発表会を何でお知りになりましたか。 ①チラシ ②関係者からの紹介 ③学内メール ④その他 ()</p> <p>3. ご覧になったプログラムについてお答えください。 (1) 概要説明 ①大変満足 ②満足 ③普通 ④不満 ⑤大変不満 (2) 学生発表第一部 ①大変満足 ②満足 ③普通 ④不満 ⑤大変不満 (3) 学生発表第二部 ①大変満足 ②満足 ③普通 ④不満 ⑤大変不満</p> <p>4. ご覧になった感想を教えてください。(複数回答) ①COC+事業について知ることができた ②様々な大学のプログラムを知ることができた ③大学生の具体的な活動を知ることができた ④大学生が地域でどのように学んでいるかを知ることができた ⑤その他ご自由にお書きください</p> <p>＜現在のあなたの状態に最も近い選択肢に○をつけてください＞</p> <p>5. 岐阜県への好感度を教えてください。 ①とても高い ②高い ③どちらともいえない ④低い ⑤とても低い</p> <p>6. 高校生・大学生のみご回答ください。岐阜県の企業に就職したいと思いませんか。 ①とても思う ②思う ③どちらともいえない ④思わない ⑤全く思わない</p> <p>7. 岐阜県の企業の理解度を教えてください。 ①十分に理解している ②理解している ③どちらともいえない ④理解していない ⑤全く理解していない</p>	<p>8. 大学生のみ、インターンシップ参加についてお答えください。 (1) インターンシップに参加したことがありますか。 ①ある (回) ②参加したことはないが今後参加する予定がある ③参加したことも参加する予定もない ④インターンシップが何か分からない</p> <p>(2) 今後、インターンシップに参加したいと思いますか ①そう思う ②思わない ③興味のある企業があれば参加したい</p> <p>(3) インターンシップに何を期待しますか ①働く体験をしたい ②企業等の実際の雰囲気を知りたい ③どんな仕事があるのかを知りたい ④社会人の話を聞く機会 ⑤就職活動に向けた話題作り ⑥その他 ()</p> <p>9. 企業・自治体・NPO 関係者のみ、インターンシップ受入れについてお答えください。 (1) 大学生対象のインターンシップを受け入れたことがありますか。 ①ある。(実施したプログラム日数で当てはまるもの全てに○をつけてください) 実施日数: ア) 1-2 日 イ) 3-5 日 ウ) 6-10 日 エ) 10 日以上 ②ない。(もっとも近いものに1つに○をつけてください) ア) 今後受け入れる予定がある。 イ) 大学と協力できるなら受け入れたい。 ウ) 受け入れたいと思わない。</p> <p>(2) 大学生のインターンシップ受入れに何を期待しますか ①人材確保 ②次世代育成のための投資 ③学生ならではのアイデア ④自社の知名度アップ ⑤繁忙期の労働力 ⑥その他 ()</p> <p>(3) 今後、大学からインターンシップのご相談を差し上げて良い場合はご連絡先を教えてください (プログラム受講人数等の都合でご連絡しない可能性もあります)。 企業名: ご担当者様: ご連絡先:</p>
裏面はインターンシップについてのアンケートです。ご協力をお願い申し上げます。	アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

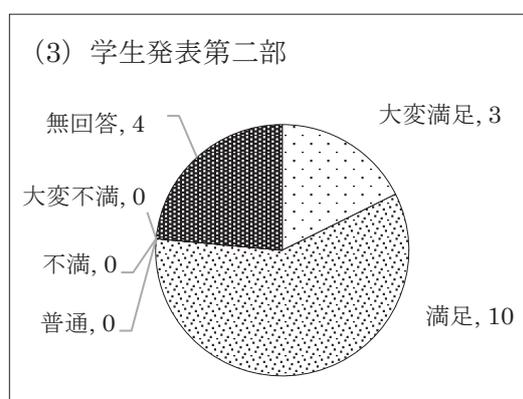
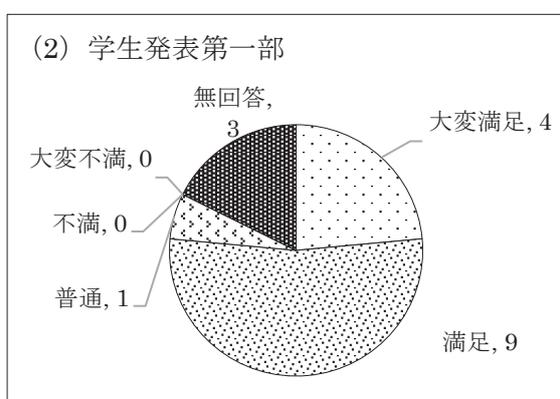
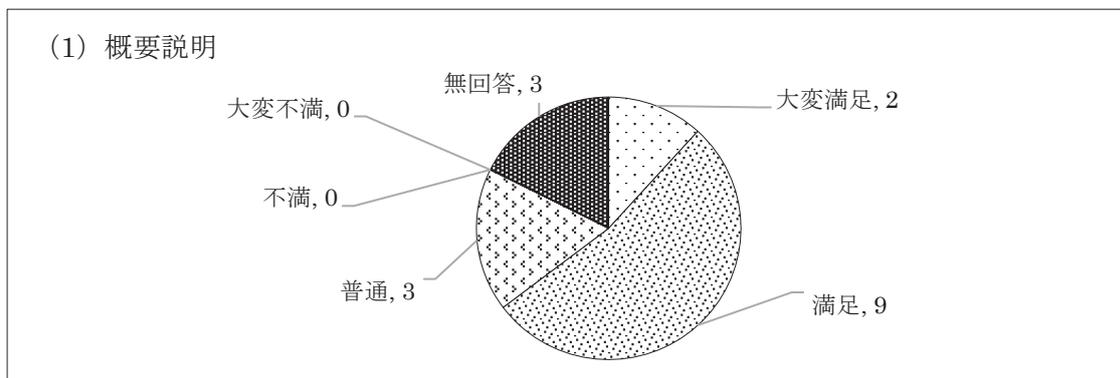
1. 来場者について

- ①高校生…0 ②大学生…2 (1年生 1、3年生 1) ③大学教員…0
- ④大学職員…1 ⑤企業関係…9 ⑥自治体関係…2 ⑦NPO 関係…1
- ⑦その他…2 (評価委員 1、無記入 1)

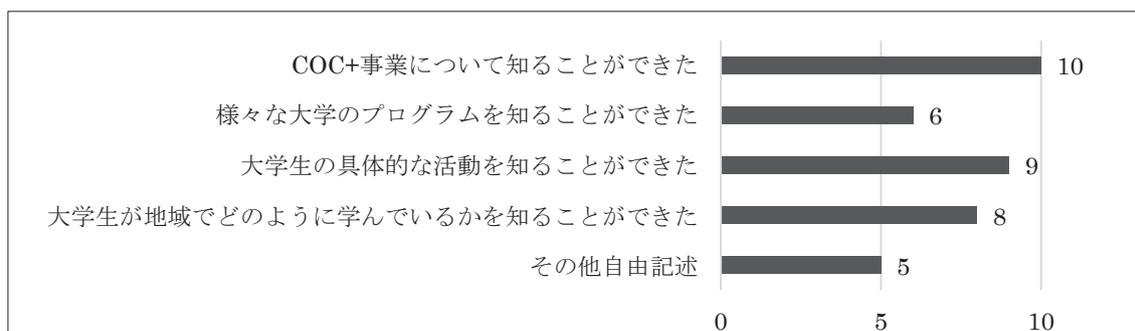
2. きっかけ (複数回答)

- ①チラシ…3 ②関係者からの紹介…14 ③学内メール…1 ④その他…0

3.満足度



4.感想（複数選択）



自由記述内容

学生さんの考えや学びが分かり良かったです。開催者側の思いと違う成長、発見があり、今回参加出来て良かったです。

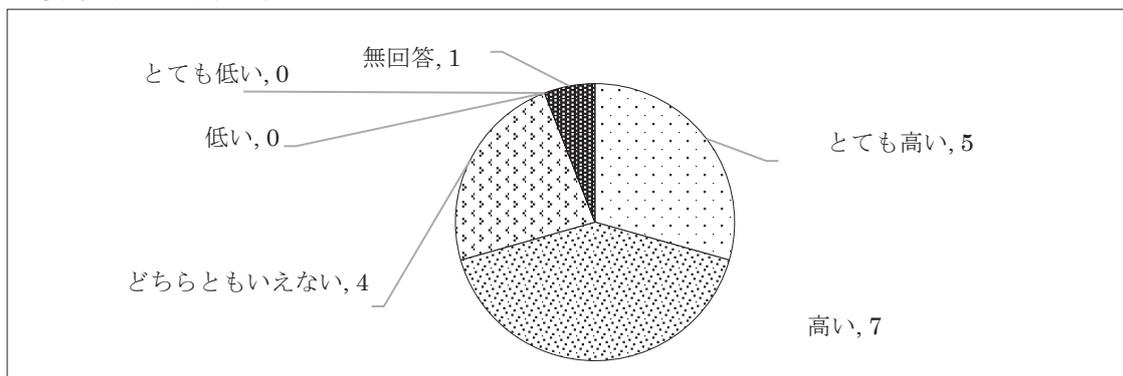
言われている方もいらっしゃいましたが、実際のインターンや取り組み内容の一部をもう少し、詳しく聞きたかったと思いました。

発表資料も配布いただけると良かったです。

おもしろかったです。「人」を育てる、良い取り組みだと思います。

全ての発表が素晴らしいものであったが、学生の聴講が少なかったのが残念。もっと多くの学生の方に長期のインターンシップ等に参加してもらいたいと思う。地方企業も積極的に参加すべきだと思います。

5. 岐阜県への好感度

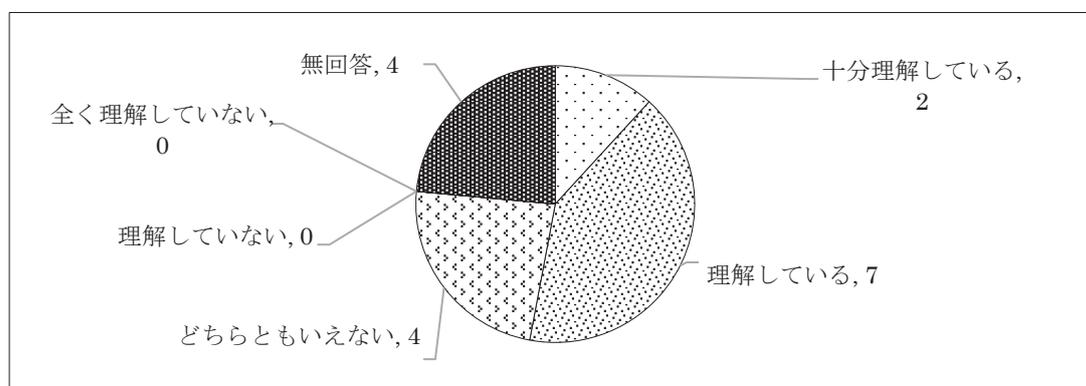


6. 【学生限定質問】（有効回答 2 件）

岐阜県の企業に就職したいと思いますか

- ①とても思う…0 ②思う…0 ③どちらともいえない…2
 ④思わない…0 ⑤全く思わない…0

7. 岐阜県の企業の理解度



8. 【学生限定質問】（有効回答 2 件）

(1) インターンシップに参加したことがあるか

- ①ある (1回) …2 ②参加したことはないが今後参加する予定がある…0
 ③参加したことも参加する予定もない…0 ④インターンシップが何か分からない…0

(2) 今後インターンシップに参加したいと思うか

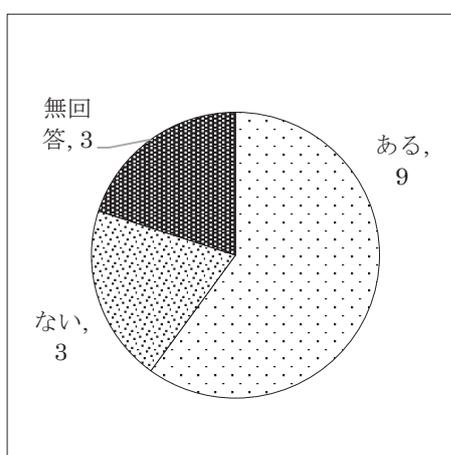
- ①そう思う…2 ②思わない…0 ③興味のある企業があれば参加したい…0

(3) インターンシップに何を期待するか（複数回答）

- ①働く体験をしたい…1
- ②企業等の実際の雰囲気を知りたい…2
- ③どんな仕事があるのかを知りたい…1
- ④社会人の話を聞く機会…0
- ⑤就職活動に向けた話題作り…0

9. 【企業・自治体・NPO 関係者のみ質問】（有効回答 15 件）

(1) 大学生対象のインターンシップの受入れ経験



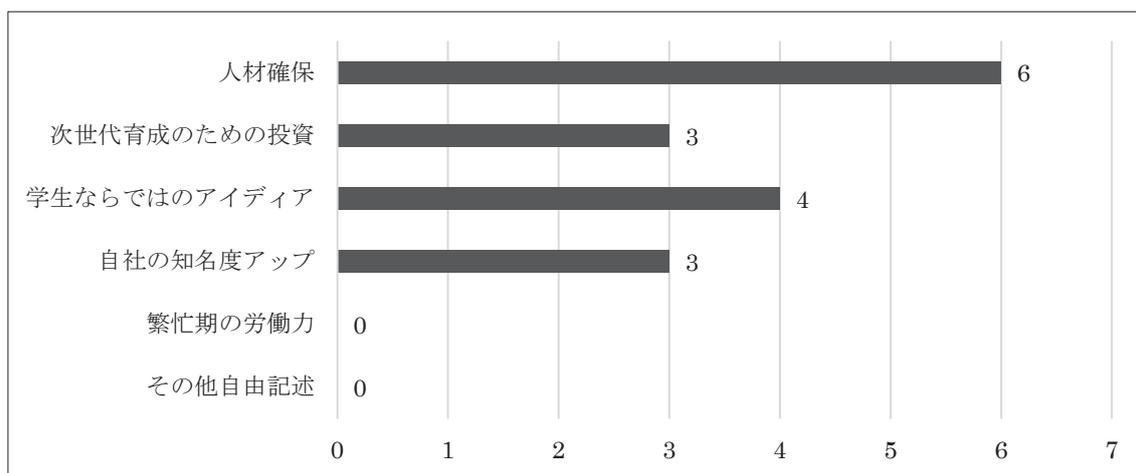
①ある場合の実施日数（複数回答）

- ア) 1-2 日…4
- イ) 3-5 日…4
- ウ) 6-10 日…0
- エ) 10 日以上…2（※同一会社）

②ない場合の対応

- ア) 今後予定がある…0
- イ) 大学と協力できるなら受入れたい…5
※受け入れ経験ありの回答者 2 件を含む
- ウ) 受入れたいと思わない…0

(2) 大学生のインターンシップ受入れに期待すること



(3) 大学からインターンシップの相談をする場合の連絡先…7 社が記入

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）

平成 29 年度 ぎふ COC+事業 成果発表会報告書

編集・発行 ぎふ COC+事業推進コンソーシアム

事務局 岐阜大学地域協学センター

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

TEL.058-293-3880 FAX.058-293-3167

発行 平成 30 年 3 月